

順列に関する補足

ここでは、定理 4.10 の後半を証明することが目標である。すなわち、与えられた順列を基本順列に変形する際に必要な互換の回数の偶・奇は、可能なすべての手順において共通であることを示す。

定義 1. n 次順列 σ に対して

$$\varepsilon(\sigma) = \prod_{\{k,l\}} \frac{\sigma(k) - \sigma(l)}{k - l}$$

と定める。ここで、記号 $\prod_{\{k,l\}}$ は集合 $\{1, 2, \dots, n\}$ の二個の元からなるすべての部分集合 $\{k, l\}$ に対して積をとることを表す。さらに

$$\frac{\sigma(k) - \sigma(l)}{k - l} = \frac{\sigma(l) - \sigma(k)}{l - k}$$

であることに注意する。例えば $n = 3$ のとき、 $\{1, 2, 3\}$ の二個の元からなる部分集合は $\{1, 2\}, \{1, 3\}, \{2, 3\}$ の三つであるから 3 次の順列 σ に対して

$$\varepsilon(\sigma) = \frac{\sigma(1) - \sigma(2)}{1 - 2} \cdot \frac{\sigma(1) - \sigma(3)}{1 - 3} \cdot \frac{\sigma(2) - \sigma(3)}{2 - 3}$$

である。従って $\sigma = (3\ 1\ 2)$ のとき

$$\varepsilon(\sigma) = \frac{3 - 1}{1 - 2} \cdot \frac{3 - 2}{1 - 3} \cdot \frac{1 - 2}{2 - 3} = 1$$

である。

例 2. $\sigma = (3\ 4\ 2\ 1)$ のとき

$$\varepsilon(\sigma) = \frac{3 - 4}{1 - 2} \cdot \frac{3 - 2}{1 - 3} \cdot \frac{3 - 1}{1 - 4} \cdot \frac{4 - 2}{2 - 3} \cdot \frac{4 - 1}{2 - 4} \cdot \frac{2 - 1}{3 - 4} = -1$$

補題 3. σ が基本行列ならば $\varepsilon(\sigma) = 1$ である。

(証明). σ が基本行列ならば $\sigma(i) = i$ が任意の i に対して成り立つから

$$\varepsilon(\sigma) = \prod_{\{k,l\}} \frac{\sigma(k) - \sigma(l)}{k - l} = \prod_{\{k,l\}} \frac{k - l}{k - l} = 1$$

となり示された。□

補題 4. 順列 σ に互換を一度行った順列を τ とする。このとき

$$\varepsilon(\tau) = -\varepsilon(\sigma)$$

が成り立つ。

(証明). τ は σ の i 番目と j 番目を入れ替えて得られているものとする。すなわち、 $k \neq i, j$ ならば $\tau(k) = \sigma(k)$ であり、 $\tau(i) = \sigma(j), \tau(j) = \sigma(i)$ である。そこで、 $\{1, 2, \dots, n\}$ の二個の元からなる部分集合 $\{k, l\}$ 全てを次の四つに分ける。

実は $\varepsilon(\sigma)$ の値は 1 または -1 のいずれかである。(系 5 参照.)

- $\{k, l\} \cap \{i, j\} = \emptyset$ すなわち k も l も i, j と異なる.
- $\{i, k\}$ ($k \neq i, k \neq j$) すなわち片方が i で残りは j と異なる.
- $\{j, k\}$ ($k \neq i, k \neq j$) すなわち片方が j で残りは i と異なる.
- $\{k, l\} = \{i, j\}$ すなわち $\{i, j\}$ と一致する.

そこで $\varepsilon(\tau)$ の計算に現れる積を四つに分けることにより

$$\begin{aligned}
\varepsilon(\tau) &= \prod_{\{k,l\}} \frac{\tau(k) - \tau(l)}{k - l} \\
&= \left(\prod_{\substack{\{k,l\} \\ \{k,l\} \cap \{i,j\} = \emptyset}} \frac{\tau(k) - \tau(l)}{k - l} \right) \cdot \left(\prod_{\substack{k \neq i \\ k \neq j}} \frac{\tau(i) - \tau(k)}{i - k} \right) \\
&\quad \cdot \left(\prod_{\substack{k \neq i \\ k \neq j}} \frac{\tau(j) - \tau(k)}{j - k} \right) \cdot \frac{\tau(i) - \tau(j)}{i - j} \\
&= \left(\prod_{\substack{\{k,l\} \\ \{k,l\} \cap \{i,j\} = \emptyset}} \frac{\sigma(k) - \sigma(l)}{k - l} \right) \cdot \left(\prod_{\substack{k \neq i \\ k \neq j}} \frac{\sigma(j) - \sigma(k)}{i - k} \right) \\
&\quad \cdot \left(\prod_{\substack{k \neq i \\ k \neq j}} \frac{\sigma(i) - \sigma(k)}{j - k} \right) \cdot \frac{\sigma(j) - \sigma(i)}{i - j} \\
&= \left(\prod_{\substack{\{k,l\} \\ \{k,l\} \cap \{i,j\} = \emptyset}} \frac{\sigma(k) - \sigma(l)}{k - l} \right) \cdot \left(\prod_{\substack{k \neq i \\ k \neq j}} \frac{\sigma(j) - \sigma(k)}{i - k} \cdot \frac{\sigma(i) - \sigma(k)}{j - k} \right) \\
&\quad \cdot \frac{\sigma(j) - \sigma(i)}{i - j} \\
&= - \left(\prod_{\substack{\{k,l\} \\ \{k,l\} \cap \{i,j\} = \emptyset}} \frac{\sigma(k) - \sigma(l)}{k - l} \right) \cdot \left(\prod_{\substack{k \neq i \\ k \neq j}} \frac{\sigma(i) - \sigma(k)}{i - k} \cdot \frac{\sigma(j) - \sigma(k)}{j - k} \right) \\
&\quad \cdot \frac{\sigma(i) - \sigma(j)}{i - j} \\
&= - \left(\prod_{\substack{\{k,l\} \\ \{k,l\} \cap \{i,j\} = \emptyset}} \frac{\sigma(k) - \sigma(l)}{k - l} \right) \cdot \left(\prod_{\substack{k \neq i \\ k \neq j}} \frac{\sigma(i) - \sigma(k)}{i - k} \right) \\
&\quad \cdot \left(\prod_{\substack{k \neq i \\ k \neq j}} \frac{\sigma(j) - \sigma(k)}{j - k} \right) \cdot \frac{\sigma(i) - \sigma(j)}{i - j} \\
&= - \prod_{\{k,l\}} \frac{\sigma(k) - \sigma(l)}{k - l} = -\varepsilon(\sigma)
\end{aligned}$$

となり示された. □

系 5. 順列 σ が r 回の互換によって基本順列に変形されると仮定する. このとき $\varepsilon(\sigma) = (-1)^r$ である.

ここまで示したことを用いて、目標としていた次の定理が証明できる。

定理 6. 順列 σ が r 回の互換によって基本順列に変形され、かつ s 回の互換によっても基本順列に変形されるとする。このとき r と s の偶奇は一致する。

(証明). 上の系から

$$\varepsilon(\sigma) = (-1)^r = (-1)^s$$

であるから、 r と s の偶奇は一致する。

□

注意 7. 実は、 $\varepsilon(\sigma) = \text{sgn}(\sigma)$ が成立する。各自で考えてみよ。